

西遊記 (1941)

鐵翁公主

メディア 映画 アニメ

ジャンル アドベンチャー ファミリー

製作国 中国

色彩 B&W

初公開日 不明

【解説】

1926年に「アトリエ騒動」という短編を作り中国アニメの基礎を築いたと言われる籙鳴（らいめい）・古蟾（こせん）・超鹿（ちょうか）の萬（はん）兄弟。その彼らの最高傑作であり、東洋で初めて作られた長編アニメが、『西遊記』の牛魔王のくだりをアニメ化したこの“鉄翁公主”である。

『西遊記』と言えば日本では東映の「西遊記」が有名だが、そこに見られる詩情など、ここには微塵もなく、バーバリズム溢れる動画で繰り広げられるひたすらダイナミックなパワーで押し切った映画になっている。ある意味で完成度を無視したこの乱暴さは、そのままこの作品の最大の魅力となっており、中国アニメ界の潮流の一つとして、後年「ナージャと竜王」という名作の中に結実して行った。

一方、萬兄弟はこの作品に金をつぎ込み過ぎた結果、第一線から身を引き、長く低迷する事になる。が、1949年、上海美術制作所が設立したのをきっかけに復帰し、再び『西遊記』に材を取った「大あばれ孫悟空」（1962）を作り出す。この作品はその後続編も制作されるが、残念な事に文化大革命の波に巻き込まれ、大阪万博で公開された後、オクラ入りとなってしまう、幻の作品となってしまったようである（「孫悟空」の題でTV放映された事有り）。尚、故手塚治虫氏が、少年時代にこの作品に刺激され、その後、代表作の一つ「ぼくの孫悟空」を描くきっかけとなったという話もある（彼の死後作られた追悼アニメ「手塚治虫物語 ぼくの孫悟空」の中に、本作を見て興奮する手塚少年の場面が描かれていた）。

【クレジット】

出演 萬籙鳴

萬古蟾